

事業報告

〔自平成25年4月1日
至平成26年3月31日〕

I. 会社の現況に関する事項

1. 営業の概況

(1) 乗客数の動向

平成25年度の乗客数は、年間14,903,196人(前年度比4.7%の増加)、1日平均40,831人(前年度比4.4%の増加)と、過去最高となりました。

増加の主な要因は、以下の通りです。

- 県内経済が観光、建設を中心に好調に推移し、雇用情勢が改善され、人の動きが活発化していること。
- 増加が著しい外国人観光客において、ゆいレールの利用率が高いこと。
- 沿線の都市開発や施設建設が進み、ゆいレールの利便性と相まって、それらの駅で乗降客数が伸びていること。
- 通勤・通学時間帯の乗客が増え、定期券も増えるなど、地元固定客の増加があったこと。

(2) 営業活動の状況

当期において、新規に取り組んだ営業活動は以下の通りです。

運輸収入部門

- 6月～8月 ゆいレールスタンプラリー
 - ・ディズニー映画キャラクターのスタンプを5駅と3映画館に設置。スタンプを揃えて応募すると、抽選でグッズ等が当たる。
- 6月15日～ フリー乗車券を使って首里4酒造所を廻ろう！
 - ・スタンプラリーを行い、オリジナル猪口をプレゼント。
- 9月7～8日 ふるさと青年エイサー祭りタイアップ。
 - ・タイアップ入場券660円の販売。入場料500円+帰りの乗車券。
- 9月25～26日 琉球ゴールデンキングスのプレシーズンマッチとタイアップ
 - ・乗車券提示で2階自由席料金が半額。
- 9～11月 “はな金”ダイヤ（秋季繁忙期臨時ダイヤ）の実施
- 11月～2月 インカ帝国展とのタイアップ
 - ・フリー乗車券提示で入館料200円引き。
- 11月1日 1日乗車券、2日乗車券の運賃改定（値上げ）
- 11月29日～ ドン・キホーテ国際通り店とのタイアップ
 - ・一定額以上購入者へ、帰りの乗車券引換券をプレゼント。
- 1月10日～2月9日 えん沖縄とのタイアップ「飲酒運転根絶キャンペーン」

- ・ 帰りの際に 自宅最寄り駅までの乗車券をプレゼント。
- 1月13～14日 琉球ゴールデンキングス公式戦とのタイアップ
 - ・ ゆいレールファンクラブ会員、ペア10名に2階自由席チケットプレゼント。両日で20名。
- 2月1～2日 てだこウォークとのタイアップ
 - ・ ポスター掲出に協力し、会場で延長路線図を展示。
- 2月7日～ 平日ダイヤ改正
 - ・ 231便から235便へ増便。
- 2～3月 沿線直結書店とのタイアップ「ほんの・・・気持ちです」
 - ・ バレンタインデー、ホワイトデーにお菓子の代わりに本を贈る。一定額以上購入者に帰りの乗車券引換券をプレゼント。

運輸雑収入部門

- ゆいレールグッズ、制服キューピー夏服バージョン制作
- 大型ポスター用什器（衝立型）導入と広告実施
- 駅内へアイスクリーム自販機設置
- 2月 ラッピング列車「ジャイアンツGO」運行

開業10周年関連事業

- 8月 記念誌「沖縄都市モノレール10年のあゆみ」発行
- 8月10日 開業10周年記念イベント
 - ・ 合同大お誕生会
 - ・ イメージキャラクター（ゆるキャラ）名称発表
名称は一般公募で「ゆっぴー」と決定。
- 8月16日 開業10周年記念シンポジウム

「ゆいレール整備による経済効果調査」発表

- ゆいレールの建設及び開業後の運営が、県内経済に及ぼした波及効果と公共事業としての有効性を検証するため、県内シンクタンク2社に調査を依頼し、結果を発表した。
- 調査結果で、予想以上の経済波及効果が確認され、ゆいレールが県内経済の牽引車の一つとして、重要な役割を果たしていることが分かった。
- 経済波及効果及び公共工事の有効性は以下の通り。

項目名	直接効果	経済波及効果	就業効果
ゆいレール建設	1,100億円	1,855億円	13,861人
ゆいレール運営	237億円	456億円	3,540人
駅周辺建築物	3,164億円	5,473億円	56,377人
合計	4,501億円	7,784億円	73,778人

雇用者所得額 2,471億円
 所得税、法人税 216億円
 固定資産税 147億円
 その他に人口増加、土地価格下落抑制、環境、通勤時間短縮等。

その他

- 全駅に Wi-Fi の「NAHAPO」（多言語、無料）アンテナを設置。那覇市事業

- 8月 「ゆいレール川柳」募集
入選作例：マラソン後 つわものどもが ゆいの中
- 9月18日 「しまくとぅばの日」紙芝居
- 9～10月 ゆいレールキャラクター弁当(キャラ弁)大募集
- 11～1月 県庁前駅自由通路イルミネーション設置
- 12月 東北楽天ゴールデンイーグルス おめでとう日本一パネル展
- 12月25日、御菓子のハコブネ 発車！！
- 2～3月「ゆいレール4コママンガ展」実施

2. 経営の状況

- (1) 平成25年度は、過去最高の乗客数と客単価の上昇で、営業収益が大きく伸びました。平成23年に締結した「金融支援に関する協定書」の効果と併せて、長期借入金を返済しながら手持ち資金を増やしております。
- (2) 浦添延長については、平成25年6月13日に沖縄県都市モノレール建設現場事務所が開設されました。
6月27日、国土交通省からインフラ外部分の軌道第二次分割工事施行の認可を得ました。
11月2日には、延長工事起工式を執り行いました。
駅予定地域では、新築マンションが短期間に完売するなど、ゆいレール延長による経済波及効果がすでに始まっています。
- (3) 沖縄県を中心に、県内バスとモノレール共通のIC乗車券導入が進められております。11月25日、沖縄ICカード株式会社が設立されました。弊社は取締役会の同意を得て、沖縄ICカード株式会社へ600万円の出資を行い、代表取締役社長には、弊社仲吉良次代表取締役社長が就任しました。
IC乗車券は、モノレールが先行して10月に導入する予定です。
- (4) 行動指針に基づく取組と実績 ー経営理念定着化のためにー

安全で快適なモノレール

- 安全方針及び安全重点施策を定め、運輸の安全確保に努めています。
- 1月30～31日沖縄総合事務局による5年に一度の保安監査を受けました。
安全に取り組む姿勢が浸透しているとの言葉をいただいた上で、2点の改善指示を受け、改善措置を行いました。
 - ① 9月17日の車両故障による遅延時間は届け出の対象となるので、報告等は鉄道事故等報告規則に基づき、確実に実施すること。
 - ② 係員の教育訓練について、結果を適切に管理し、知識・技能を保有していることを確認できる体制を構築すること。

- 2月20～21日、沖縄総合事務局による運輸安全マネジメント評価を受けました。
改善に向けた具体的取り組みなど3点の評価をいただき、ヒヤリハット情報への取り組み強化など4点の検討課題が示されました。
- 3月10日、おもろまち駅で車両ドアへお客様の手を挟むヒューマンエラーを起こしました。
お客様への対応を行うとともに、マスコミへの発表、教育訓練などの再発防止策を講じました。
- 3月19日、外部から専門家を招き、ヒューマンエラー対策についての安全講話を行いました。
- AEDを全駅に設置し、広報しました。赤嶺駅では近隣での人命救助に役立ち、駅員が那覇市消防本部から表彰されました。
- 曲線駅ホームの可動式ホーム柵用センサー導入について、5駅中2駅で導入し、残り3駅は平成26年度に導入します。
- 平成24年度から開始した運転士自社養成は、24年度に1名、25年度に2名の合格者を出しました。
- 運転状況記録装置を3編成に導入しました。
- 全般・重要部検査を3編成行いました。

人にやさしく、環境にもやさしいモノレール

- 駅務員のサービス介助士2級取得については、73%の駅員が資格を取得しました。全員の取得を目指します。
- 県庁前駅、美栄橋駅の照明をLEDにしました。

社会と共生するモノレール

- 東日本大震災避難者への運賃支援を継続しています。
- 「十五の春応援カード2013」で、離島からの高校進学者への運賃支援を開始しました。
- 9月8日、救命講習修了者がいることとAED設置などで、那覇市消防本部から全駅をうまんちゅ救急ステーションと認定されました。
- 12月19日、沖縄県から新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定地方公共機関の指定を受け、流行時においても輸送確保の責務を担うこととなりました。

3. 決算計数についてご説明いたします。

- (1) 当期利益 Δ 347 百万円 (前年度比 267 百万円の改善)
減価償却前利益 887 百万円 (前年度比 227 百万円の改善)
- (2) 運輸収入は 2,760 百万円で、前年度比 208 百万円 8.2%の増加になりました。
増収額が多い主な券種は以下の通りで、地元客増加が見られます。
- | | | |
|---------|---------|---------|
| 普通券・・・ | 101 百万円 | 6.9%の増 |
| フリー乗車券・ | 43 百万円 | 13.2%の増 |
| 回数券・・・ | 38 百万円 | 10.4%の増 |
| 通勤定期・・・ | 17 百万円 | 8.4%の増 |
| 通学定期・・・ | 7 百万円 | 7.9%の増 |

運輸雑収入は、156 百万円で前年度比 Δ 2 百万円 1.1%の減収になりました。
主な要因は広告収入で、平成 24 年度には車両ラッピング広告の収入が 2 編成あったために、反動減で前年度比 Δ 3 百万円となったためです。
コインロッカーは 1 百万円、10.3%の増、自販機は 1 百万円、9.3%の増と順調に伸びております。

運輸収入と運輸雑収入を合わせた営業収益は、2,917 百万円 前年度比 206 百万円 7.6%の増収でありました。

- (3) 営業費は、減価償却費 1,235 百万円を含め 3,059 百万円となっており、前年度比 Δ 35 百万円の 1.1%の減となりました。

営業損失は 142 百万円で、前年度比 241 百万円改善されました。
これは、営業収益が増加したことと減価償却費等の減による営業費の減少によるものです。
その他営業外損益と特別損益を加減して上記の当期利益、減価償却前利益となっております。

注記

減価償却前利益とは、人件費、修繕費、動力費、諸経費、借入金利息等社外に流出する費用全てを払い終わった状態で、現金商売である当社の場合、ほぼ手元に残るキャッシュを意味しております。

4. 対処すべき課題

- (1) おかげさまで昨年度は総乗客数、1日平均乗客数、売上高とも過去最高を記録しました。

1日平均乗客数の前年度比伸率は、23年度3.2%、24年度6.3%、25年度4.4%となり、この3年で10%以上伸びたこととなります。

平成26年2月7日には、2年ぶりのダイヤ改正を実施し、朝のラッシュ時、夕方のラッシュ時の混雑への対応として輸送力の向上を図りました。

外国人のお客さまも目立つようになりましたが、安全で安心、かつ快適な唯一の軌道系公共交通機関としての役目を果たしてまいります。

- (2) 浦添延長工事につきましては、昨年11月2日めでたく着工の運びとなりました。

本年度の沖縄県予算で121億円余の予算計上がなされました。

平成31年春開業に向けて、沖縄県・那覇市・浦添市・沖縄都市モノレール(株)の4者一致協力して目標の完遂に全力を傾けてまいります。

当然のことながら、工事建設中の安全には万全を期してまいります。

- (3) お客さまの利便性向上と沖縄県の公共交通活性化促進策への協力としてすすめてまいりましたIC乗車券のバス4社との共通利用につきましては、平成27年4月に一斉スタートを計画しております。

ただし、ゆいレールは、同システムのテスト試行の意味も含めて平成26年10月から先行運用することとなっております。

沖縄県初のIC乗車券及びQRコード乗車券によるワンタッチ方式の改札通過となることから、お客さまの案内・誘導には十分な配慮をしてまいります。

ご協力をお願い申し上げます。

貸借対照表

(平成26年 3月31日 現在)

(単位:千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	1,235,149	流動負債	949,295
現金・預金	928,942	短期借入金	450,000
営業未収金	27,406	未払金	209,550
未収金	6,591	未払費用	65,414
未収収益	99	未払消費税	22,489
貯蔵品	230,787	未払法人税等	12,824
前払費用	1,977	預り金	16,196
立替金	39,343	前受運賃	92,226
		前受金	76,388
		リース債務	4,205
固定資産	18,906,959	固定負債	25,284,676
有形固定資産	18,753,198	長期借入金	25,140,544
土地	5,107,385	退職給付引当金	129,873
建物	3,941,421	リース債務	14,259
構築物	18,048,480		
車両	6,583,561	負債合計	26,233,971
機械装置	1,675,412	(純資産の部)	
工具・器具・備品	506,710	株主資本	△ 6,091,862
リース資産	17,800	資本金	7,338,650
建設仮勘定	105,869	利益剰余金	△ 13,430,512
減価償却累計額	△ 17,233,442	その他利益剰余金	△ 13,430,512
無形固定資産	78,496	繰越利益剰余金	△ 13,430,512
電話加入権	591		
商標権	1,112		
電気供給施設利用権	41,025		
ソフトウェア	35,767		
投資その他の資産	75,265	純資産合計	△ 6,091,862
投資有価証券	6,000		
長期前払費用	69,187		
その他の投資等	288		
貸倒引当金	△ 210		
資産合計	20,142,109	負債・純資産合計	20,142,109

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

第32期(自:平成25年4月1日 至:平成26年3月31日)

(単位:千円)

科 目	金 額	
営業収益		
旅客運輸収入	2,760,865	
運輸雑収	156,970	2,917,835
営業費		
運送費	1,477,307	
案内宣伝費	73,896	
一般管理費	137,189	
諸税	136,124	
減価償却費	1,235,349	3,059,866
営業損失		142,031
営業外収益		
受取利息	781	
貸倒引当金戻入	470	
雑収入	11,352	12,604
営業外費用		
雑支出	32	
支払利息	218,626	218,658
経常損失		348,085
特別利益		
補助金	28,936	28,936
特別損失		
固定資産圧縮損	24,193	24,193
税引前当期純損失		343,342
法人税、住民税及び事業税		3,800
当期純損失		347,142

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位:千円)

	株 主 資 本		
	資本金	利益剰余金	株主資本合計
		その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	
平成25年4月1日残高	7,333,650	△ 13,083,369	△ 5,749,719
当期変動額			
新株の発行	5,000		5,000
当期純利益		△ 347,142	△ 347,142
当期変動額合計	5,000	△ 347,142	△ 342,142
平成26年3月31日残高	7,338,650	△ 13,430,512	△ 6,091,862

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書

沖縄都市モノレール株式会社

(単位:千円)

平成25年4月1日～平成26年3月31日

I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	852,767
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 82,726
・車両運転状況記録装置設置 (6編成)△19百万円	
・延長インフラ外入札図書等作成業務△51百万円	
・投資有価証券△6百万円	
・補助金入金 75百万円	
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 445,000
・借入返済額△450百万円	
・株式の発行による収入 5百万円	
IV. 現金及び現金同等物の増加	325,041
V. 現金及び現金同等物期首残高	603,901
VI. 現金及び現金同等物期末残高	928,942